

**Science Report of Kushiro City Museum**

# 釧路市立博物館報

**NO.437**



**2026.3**

## 「釧路市立博物館との思い出」

思い出を思い起こすままに記したいと思います。

私が小樽市博物館の学芸員として就職した1990年。標津で学芸職員部会が開かれ、懇親会後の二次会で、居酒屋の小さなテーブルを囲んで、なぜか澤四郎元館長と若手学芸員5人ほどの呑み会になりました。澤館長が若手に向かって「この中で今の鉄の値段を知っているものはいるか」と質問され、皆キョトンとした顔をしていると、「学芸員たるもの、鉄の価格変動くらい押さえていないと、博物館を建てたり大きくしたりすることはできないぞ」と喝を入れられました。学芸員になりたての私は、博物館現場のなんたるかを教えてもらい、とても驚き、澤館長の佇まいとともに鮮明に覚えています。

飯島一雄先生は道東の昆虫相を長年にわたり調べられ、道内では先駆的な昆虫愛好家です。小樽市博物館の佐々木謙先生と一緒に、小樽の蛾の記録を紀要に報告したところ、飯島先生から「記録の出典が不明であるから明記するように」という手紙をもらいました。当時、大学院で分類学を修めたばかりの私は、北大農学部昆虫学教室に所蔵されている1866年に出版されたButlerの論文をコピーして、飯島先生に返答したところ、先生は私を分類学者と認めてくださり、それ以降、私の専門のエンマムシ科甲虫の同定依頼や別刷りのご寄贈をいただき交流をさせていただきました。時には「裏山で採れた椎茸」

と嬉しい贈物もいただきました。先生の80歳記念展示の際には、釧路市立博物館から招待をいただき講演をさせていただきましたが、当時、飯島先生はご高齢ということもあり、結局、直接お会いする機会がなく、お手紙だけの交流になってしまったのは心残りの一つです。先生の業績は、道東、ひいては日本の昆虫相の解明に大きな貢献をされており、先生のコレクションが釧路市立博物館に収蔵されたことは何より嬉しいことでした。

2012年にはパラタクソノミスト養成講座(昆虫)を釧路市立博物館で開催、2025年夏には、メーリアン昆虫図譜の企画展示を、北大総合博物館に引き続いて開催していただきました。博物館交流という意味でも釧路市立博物館との関係は思い出深いものです。

個人的には海外からの客人があると、北海道らしい道東を案内することが喜びでもありました。釧路湿原、知床・根室へ案内し、釧路市立博物館で展示を見ながら復習する、という訪問コース。特にアイヌ関連の展示で北海道をより深く理解してもらうこともできました。さまざまな海外の研究者と一緒に博物館を訪れたのも良い思い出です。

釧路市立博物館の今後の一層の発展を祈念しております。

大原 昌宏(北海道大学総合博物館 特任教授)

## 3月号目次

〔講演録〕企画展「メーリアンの立体昆虫図譜」開催記念講演会

昆虫はなぜ描かれるのか? .....	大原 昌宏	3
霧多布湿原におけるアカアシシギ <i>Tringa totanus</i> の繁殖調査 .....	藤井 薫・樋口 綾・中塚 智子・澤 祐介・北沢 宗大・貞國 利夫・古巻 翔平・内田 愛実・佐々木紀嘉	6
旧二俣簡易郵便局前の郵便差出箱(1号)を受贈 .....	石川 孝織	9
博物館プレ90周年リレー展「馬市でにぎわったまち～釧路・大楽毛地区～」 .....	戸田 恭司	10
戦後80年・収蔵資料紹介「アツツ島に咲くアツツさくら」 .....	加藤ゆき恵	11
博物館ニュース .....		12

〈表紙写真〉企画展「人と植物」より『つまご』。つまごはゴム長靴が普及する前に使われていた冬の履物です。この資料には「三角シギを入手したので開拓百年記念のために作る」という収集情報が付いています。「三角シギ」という植物はなく、サンカクイ(カヤツリグサ科)の別称サンカクスゲが訛ったものと推察されます。サンカクイは釧路にも分布しますが、近縁種のフトイあるいは他のカヤツリグサ科植物で作られている可能性もあります。(加藤ゆき恵)

釧路市立博物館館報 No.437 2026年3月号 2026年(令和8年)3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 北海道釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809 FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <https://www.city.kushiro.lg.jp/museum/museum@city.kushiro.lg.jp>

発行責任者 秋葉 薫 編集 貞國 利夫 印刷 (株)藤プリント